

栄養学

年次	学期	学則科目責任者
3年次	後学期	3年次学年教育主任

学習目標 (G I O)	わが国は少子高齢化が進み、2009年の日本人の平均寿命は男性79.29歳、女性86.0歳（世界1位）で、高齢者人口は22.1%（2008年）であった。一方、健康寿命は男性72.3歳、女性77.7歳（世界1位、2003年WHO）であり、健康寿命を平均寿命に近づけるための方策を栄養学的に考えることは非常に重要である。生活習慣病に罹患する者のほとんどが以前は高齢者であったが、近年では、若年層で多く認められることから、母体の胎児環境が遺伝因子に影響し、生活習慣病の発症に関与する可能性が考えられる。少子高齢化を考える時、より健康な多くの子どもを産み育てる社会を作り、健康寿命を延ばして、高齢期を健康で生きがいのある生活が送れるように栄養学的に考えることを目標とする。
担当教員	平塚 浩一、吉垣 純子、清水 武彦、清水 邦彦、葛西 一貴、河相 安彦、郡司 敦子、近藤 壽郎、伊藤 耕、坂巻 達夫、牧山 康秀、小方 頼昌
教科書	・2年次で使用した生化学および生理学の教科書 ・講義内容に関連した資料を配布する。
参考図書	基礎栄養学（第3版） 坂井堅太郎 化学同人 応用栄養学（改訂7版） 寺田和子 ほか 南山堂 超入門 生化学・栄養学（看護学生超入門シリーズ） 穂苅 茂、小山 岩雄、長谷川 正博 照林社 シンプル生化学 林典夫、廣野治子 南江堂
実習器材	なし
評価方法 (E V)	平常試験によって評価する。
学生へのメッセージ オフィスアワー	教科書は、2年次で使用した生化学および生理学の教科書とする。 解らないことはそのまま放置せずに、質問すること。（オフィスアワー16:30~17:30 各担当の医局にて）

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/09/30 (火) 1時限 09:00~10:30	五大栄養素の分類・構造・特徴	<p>【授業の一般目標】 基礎栄養学を理解するために五大栄養素の基本的な分類、構造および特徴を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 三大栄養素と五大栄養素の違いを説明できる。 2. タンパク質を構成するアミノ酸の構造、性状、および必須アミノ酸の意味を説明できる。 3. 炭水化物を分類し具体的な種類を説明できる。 4. 脂質の構造と脂肪酸の種類・特徴を説明できる。 5. ビタミンの種類とその欠乏症を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 食事の際に口にする食物を五大栄養素で分類してみる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 プリントを配布する。</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 d 生体構成成分の構造・機能</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子の基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *①アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。 *②糖質の構造、機能および代謝を説明できる。 *③脂質の構造、機能および代謝を説明できる。</p>	平塚 浩一
2014/10/07 (火) 1時限 09:00~10:30	エネルギー代謝と消化酵素	<p>【授業の一般目標】 ATP産生を理解するために、五大栄養素の関わりとエネルギー代謝経路を学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 炭水化物の代謝経路を説明できる。 2. β酸化を説明できる。 3. アミノ酸の脱アミノ反応の意義を説明できる。 4. 尿素経路を説明できる。 5. アデノシン三リン酸がエネルギーになる理由を説明できる。</p>	平塚 浩一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/10/07 (火) 1時限 09:00～10:30	エネルギー代謝と消化酵素	<p>6. 解糖系、TCA回路、電子（水素）伝達系、尿素回路の場所を説明できる。 7. 三大栄養素が小腸から吸収されるまでの消化酵素を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 消化酵素の種類と基質および合成器官と分泌場所を調べておく。</p> <p>【学習場所・媒体等】 プリントを配布する。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 1 細胞、組織 ア 生体を構成する基本物質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 d 生体構成成分の構造・機能</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子の基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 *①アミノ酸とタンパク質の構造、機能および代謝を説明できる。 *②糖質の構造、機能および代謝を説明できる。 *③脂質の構造、機能および代謝を説明できる。 *④生体内におけるエネルギー利用を説明できる。 *⑤酵素の機能と主な代謝異常を説明できる。</p>	平塚 浩一
2014/10/14 (火) 1時限 09:00～10:30	糖代謝異常と脂質代謝異常	<p>【授業の一般目標】 糖代謝異常と脂質代謝異常の症状とメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 食品のエネルギーが計算できる。 2. 基礎代謝量に影響する要因を説明できる。 3. 糖代謝異常としての糖尿病を説明できる。 4. 脂質代謝異常の症状と原因を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 糖代謝と脂質代謝の経路を復習しておく。</p> <p>【学習場所・媒体等】 プリントを配布する。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 ケ 内分泌、代謝、栄養</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(8) 内分泌系 *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】</p>	吉垣 純子
2014/10/21 (火) 1時限 09:00～10:30	ビタミンの役割と欠乏症	<p>【授業の一般目標】 ビタミンの人体における役割を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 人体におけるビタミンの役割を説明できる。 2. 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンを分けられる。 3. ビタミン欠乏による症状を説明できる。</p> <p>【準備学習項目】 酵素と補酵素の関係を調べておく。</p> <p>【学習場所・媒体等】 プリントを配布する。</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	吉垣 純子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/10/21 (火) 1時限 09:00～10:30	ビタミンの役割と 欠乏症	301教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 ケ 内分泌、代謝、栄養 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (8) 内分泌系 *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】	吉垣 純子
2014/10/28 (火) 1時限 09:00～10:30	成長発育と栄養 小児期の食育	【授業の一般目標】 小児期の適切な栄養摂取を理解するために、乳児期の栄養と小児期の食育について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 妊娠授乳期の栄養を説明できる。 2. 乳児期の栄養を説明できる。 3. 小児期の食育について説明できる。 【準備学習項目】 成長発育と栄養 小児期の食育 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ウ 母子保健 b 妊産婦・乳幼児の保健指導 【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 b 発育期の特徴 歯科医学総論 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 1 人体の発生・成長・発達・加齢 エ 新生児期、乳児期 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-6) 口腔保健 E-1-6) - (2) 歯科保健指導 ④適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-2) 小児の歯科治療 *①小児の身体発育、精神発達の特徴と評価法を説明できる。 E-1 診療の基本 E-1-6) 口腔保健 E-1-6) - (2) 歯科保健指導 ⑦ライフステージに応じた食育について説明できる。	清水 武彦
2014/11/04 (火) 1時限 09:00～10:30	小児齲蝕とシュガー コントロール	【授業の一般目標】 小児期の齲蝕抑制を理解するために、齲蝕と砂糖摂取の関係について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 齲蝕と砂糖摂取の関係について説明できる。 2. 飲料による齲蝕を説明できる。 3. シュガーコントロールについて説明できる。 【準備学習項目】 小児齲蝕とシュガーコントロール 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ケ 保健指導 a 栄養と食生活 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 1 齲蝕の予防・管理 ア 齲蝕の原因 オ 齲蝕の予防手段 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 小児の歯の硬組織疾患	清水 邦彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/11/04 (火) 1時限 09:00～10:30	小児齲蝕とシュガーコントロール	ウ 齲蝕のリスクファクター 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-6) 口腔保健 E-1-6) - (2) 歯科保健指導 ④適切な食事指導(栄養指導)を実施できる。 ⑤生活習慣に関して適切に指導できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-2) 小児の歯科治療 *②乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴、う蝕予防を説明できる。	清水 邦彦
2014/11/11 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科矯正と食育	【授業の一般目標】 子供たちの口腔機能の向上が不正咬合予防に役立つことを理解するために、口腔機能と口腔形態との関わりを理解し、子供たちの口腔の健康に関心を高める。 【行動目標(SBOs)】 1. 正しく噛むことの重要性について説明できる。 2. 顎骨・歯列形態の成長変化について概説できる。 3. 食生活の変化について説明できる。 4. 現代の子供たちの歯並びの問題点を列挙できる。 【準備学習項目】 咀嚼筋群について理解する。 【学習場所・媒体等】 解剖学教科書 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育 歯科医学各論 各論I 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 イ 不正咬合発生の予防 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴
2014/11/18 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科矯正と食育	【授業の一般目標】 子供たちの口腔機能の向上が不正咬合予防に役立つことを理解するために、口腔機能と口腔形態との関わりを理解し、子供たちの口腔の健康に関心を高める。 【行動目標(SBOs)】 1. 正しく噛むことの重要性について説明できる。 2. 顎骨・歯列形態の成長変化について概説できる。 3. 食生活の変化について説明できる。 4. 現代の子供たちの歯並びの問題点を列挙できる。 【準備学習項目】 咀嚼筋群について理解する。 【学習場所・媒体等】 解剖学教科書 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育 歯科医学各論 各論I 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 イ 不正咬合発生の予防	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/11/18 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科矯正と食育	<p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴
2014/11/25 (火) 1時限 09:00～10:30	義歯装着者の食の摂取と栄養	<p>【授業の一般目標】 高齢義歯装着者の食の自立や支援ができるために、義歯装着者の食摂取および心理的背景に関する知識および技能を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 果物および野菜の必要摂取量を説明できる。 2. 果物と野菜の全身への影響を説明できる。 3. 義歯装着者の食事摂取の特徴を説明できる。 4. 義歯装着者の食事摂取に影響する因子を列挙できる。 5. 関連する文献を吟味できる。</p> <p>【準備学習項目】 世界保健機構 (WHO) のホームページを参照して高齢者の食の傾向を予習する。 http://www.who.int/nutrition/topics/ageing/en/index1.html WHOの資料をダウンロードして内容を抄読する</p> <p>【学習場所・媒体等】 メディア・文献の配布・グループワーク</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 12 国民栄養と食品保健 カ 食の機能と口腔保健</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 6 保健指導 エ 生活習慣指導 カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 12 国民栄養と食品保健 ア 国民栄養の現状 イ 食事摂取基準 ウ 食生活指針</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) *②可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。</p>	河相 安彦
2014/12/02 (火) 1時限 09:00～10:30	義歯装着者の食の摂取と栄養	<p>【授業の一般目標】 高齢義歯装着者の食の自立や支援ができるために、義歯装着者の食摂取および心理的背景に関する知識および技能を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 無歯顎者の食の傾向について説明で知る。 2. 加齢に伴う唾液の変化について説明できる。 3. 高齢者の味覚について説明できる。 4. 義歯装着者の栄養障害に着いて述べるができる。</p> <p>【準備学習項目】 無歯顎補綴治療学p36～37, 80～81</p> <p>【学習方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 12 国民栄養と食品保健 ア 国民栄養の現状</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 12 国民栄養と食品保健 イ 食事摂取基準 ウ 食生活指針</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯)</p>	河相 安彦 郡司 敦子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2014/12/02 (火) 1時限 09:00～10:30	義歯装着者の食の 摂取と栄養	*①歯の欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 *②可撤性義歯の種類、目的および意義を説明できる。	河相 安彦 郡司 敦子
2014/12/09 (火) 1時限 09:00～10:30	入院患者の栄養補 助	【授業の一般目標】 入院患者、周術期患者の栄養補助の必要性、栄養補助の理論と実際を説明でき る。 【行動目標 (SBOs)】 1. 入院患者、周術期患者の栄養補助の必要性を説明できる 2. 患者の栄養状態の評価法が説明できる 3. 補助栄養の組成を説明できる 4. 栄養補助の方法が選択できる 【準備学習項目】 一日の必要栄養について説明できる 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 フ 栄養療法 a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養 (経腸栄養、胃瘻<PEG>) 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-6) 口腔保健 E-1-6) - (2) 歯科保健指導 ④適切な食事指導 (栄養指導) を実施できる。	牧山 康秀
2014/12/16 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科における栄養 管理方法 口腔外科手術の術 後栄養管理 口腔癌患者の栄養 管理 歯性感染症患者の 栄養管理	【授業の一般目標】 口腔外科的疾患に対する治療前後の栄養管理を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科における栄養管理法について理解できる。 2. 口腔外科手術の術後栄養管理について説明できる。 3. 口腔癌患者の栄養管理について理解できる。 4. 歯性感染症患者の栄養管理について理解できる。 【準備学習項目】 経管栄養食の組成や特徴を理解する。 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 フ 栄養療法 a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養 (経腸栄養、胃瘻<PEG>) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 *①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 *②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) を説明できる。	伊藤 耕
2015/01/13 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科における栄養 管理方法 口腔外科手術の術 後栄養管理 口腔癌患者の栄養 管理 歯性感染症患者の 栄養管理	【授業の一般目標】 口腔外科的疾患に対する治療前後の栄養管理を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科における栄養管理について説明できる。 2. 口腔外科手術の術後栄養管理について説明できる。 3. 口腔癌患者の栄養管理について説明できる。 4. 歯性感染症患者の栄養管理について説明できる。 【準備学習項目】 経鼻栄養管挿入の手技、注意事項を理解する。 【学習方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 フ 栄養療法 a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養 (経腸栄養、胃瘻<PEG>) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 生体と薬物 C-5-3) 薬物の適用と体内動態	伊藤 耕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/01/13 (火) 1時限 09:00～10:30	歯科における栄養管理方法 口腔外科手術の術後栄養管理 口腔癌患者の栄養管理 歯性感染症患者の栄養管理	*①薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。 *②薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。	伊藤 耕
2015/01/20 (火) 1時限 09:00～10:30	生活習慣病 肥満 栄養バランス 食事指導	【授業の一般目標】 生活習慣病について理解する。 肥満について理解する。 日本人の食事内容の変遷について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 食事内容の変化と生活習慣病の関連を説明できる。 2. 体重と疾患の関係を説明できる。 3. 適切な食事指導ができる。 【準備学習項目】 生活習慣病について説明できる。 肥満について説明できる。 日本人の食事内容の変遷について説明できる。 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 e メタボリックシンドローム 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論II 健康管理・増進と予防 1 健康の保持・増進と予防 イ 健康づくり(栄養、運動、休養) ウ 禁煙指導・支援 5 成人保健、成人歯科保健 イ 特定健康診査、特定保健指導 12 国民栄養と食品保健 ア 国民栄養の現状 イ 食事摂取基準 ウ 食生活指針 【コアカリキュラム】	坂巻 達夫
2015/01/27 (火) 1時限 09:00～10:30	歯周病と全身疾患	【授業の一般目標】 歯周病と全身疾患の関係について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 糖尿病と歯周病の関係について学ぶ 2. 歯周組織再生に関与する骨代謝について理解する 【準備学習項目】 臨床歯周病学(第2版)医歯薬出版 第20章ペリオドンタルメディスンを熟読する。 【学習場所・媒体等】 301教室、板書およびパワーポイント 【学習方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 301教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論III 歯・歯髄・歯周組織の疾患 8 成人の歯周病 コ 歯周病と全身疾患との関わり 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 3 歯周病 ウ 歯周病と全身疾患の関わり 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *④歯周疾患の病因と病態を説明できる。	小方 頼昌
2015/02/03 (火) 1時限 09:00～10:30	平常試験	【授業の一般目標】 栄養学の授業内容をまとめ、理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 適切な食事指導を実施できる 2. ライフステージに合わせた食育を説明できる	小方 頼昌 平塚 浩一 吉垣 純子 清水 武彦 河相 安彦 葛西 一貴 伊藤 耕

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2015/02/03 (火) 1時限 09:00～10:30	平常試験	<p>【準備学習項目】 今まで受けた栄養学の授業内容をまとめる。</p> <p>【学習場所・媒体等】 301教室</p> <p>【学習方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 301教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 1 健康の保持・増進と予防 イ 健康づくり（栄養、運動、休養）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 3 予防と健康管理・増進 ア 健康増進と疾病予防 e メタボリックシンドローム</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-6) 口腔保健 E-1-6) - (2) 歯科保健指導 ④適切な食事指導（栄養指導）を実施できる。 ⑦ライフステージに応じた食育について説明できる。</p>	坂巻 達夫 牧山 康秀